

天文教育

2016 9

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<投稿>小中学校国語教科書での天文分野の文章

<連載>花山天文台で行った生徒実習から／宇宙を観じる生活を！／

社会教育施設について考える(WG報告)

<その他>天文教育普及研究会 2016 年度総会資料

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
 2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
 3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
 4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
 5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
 6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
 7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。
- ・締め切りは1は原則として奇数月末日、2~7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。
- ・広告掲載を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判 1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。
- ※本誌に掲載された記事は、当会Webサイト (<http://tenkyo.net/>) にてPDFファイルの形で公開を予定しております。
インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。
- なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限※をかけた形で閲覧できるようになり、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。
- ※今号「事務局からのお知らせ」の末尾をご参照ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願ひいたします。

- ・原稿の投稿は、原則としてMicrosoft Wordファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・充分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願ひいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

去り行く夏と秋への思い

日時：2016年8月31日19時39分、撮影地：菅平高原（長野県上田市）

8月末日、残暑の残る夕暮れどきに、金星と木星の接近を見ようと出かけた。夕暮れの空を見上げると、西の低空には金星が、南西の空には赤い火星が、そして、天頂にはベガが青い空をバックに輝いている。時計を見ると、まだ午後7時前であった。まもなく夕闇がやってきて、道路の彼方に、いて座から天頂に繋がる天の川が浮かびあがって来た。それと同時に、日中の熱風がそよ風となり、虫の音も一斉に聞こえ始めた。今年の夏

限定の土星・火星・アンタレスで作る「夏の小三角」がまだ明るく輝いていた。しかし、いつの間にか底辺が入れ替わっていた（5月号表紙参照）。

「ああ、すでに夏が終わっていたのか」。

秋の夕暮れは一挙にやってくる。夕暮れ時、さそり座が西の低空に寝そべり、10月には火星はいて座へと移る。いて座から天頂の夏の大三角に向けて天の川が垂直に立ち上り、天頂のはくちょう座から北東の秋の天の川へと真っ直ぐ流れ下る。夕暮れの残照の中で見るこの全天を駆け巡る天の川は、私の最も心に染み入る光景のひとつである。

撮影と文：大西浩次